

プロバスケットボールリーグ「bj リーグ」における新規参入ホームタウンの可能性 ～秋田県能代市を例にして～

A possibility of new entry franchise for professional basketball ～Case study of Noshiro city AKITA～

1K03B033 - 0

氏名 大原進太郎

指導教員 主査 木村和彦 先生 副査 石井昌幸 先生

【研究動機】

幼少のころより筆者の故郷にはプロスポーツチームというものが一つもなく、いつか自分が心から応援できるチーム、誇りを持てるチームができればと思っていた。そこで、私の出身地である秋田県能代市にプロスポーツクラブを発足させることができないものかと考えたことが第一の動機である。能代市は「能代工業高校」を抱える市で、自らを「バスケの街」としてアピールし、全国的知名度も高い。市民の間でも、バスケ熱は高く、市内の公園にはバスケットリングが設置されているところが多く、遊びの中にバスケットボールが定着しているように感じられる。しかし、高校以上のカテゴリーに目を移すと、市民がトップレベルのバスケットを観戦する機会や、プレーする機会は少ない。こういった背景もあり、能代市に bj リーグのチームを発足させることはできないかと考えた。

【研究目的】

本研究では、能代市における bj リーグ新規参入チームのホームタウンとしての「メリット、デメリット」を明らかにし、ホームタウンとしての「適合性」や「可能性」を研究する。また、今後 bj リーグのホームタウンにふさわしくなるための課題の提案も行う。

あくまで、プロスポーツが地域社会を活性化させるという前提の上、能代市のスポーツ発展と地域振興、日本のバスケットボール界の発展のわずかながらの力添えとなればと考える。

【研究方法】

本研究は能代市における bj リーグ新規参入チームのホームタウンとしての「メリット、デメリット」を明らかにし、ホームタウンとしての「適合性」や「可能性」を明らかにすることを目的としている。そのために現在の bj リーグの状況、新規参入を決めたチームの状況、能代市の現在の状況を比較して考察する。考察する際の参考資料としてインタビュー調査を行った。その上で能代市が他の都市より優れている点、劣っている点を抽出し、能代市のホームタウンとしての適正を判断していきたいと考える。bj リーグの現状及び、新規参入チームの現状を把握するための資料として主に bj リーグ公式ホームページ(<http://www.bj-league.com/>)、公式ブログ

(<http://bjleague.livedoor.biz/>)の記事を参考とした。能代市の現状を把握するために主に、能代市のホームページ(<http://www.city.noshiro.akita.jp/>)、インタビュー調査の回答からデータを入手した。

【結論】

bj リーグの現状、新規参入チームの現状、能代市の現状を比較して考察したところ、現在の状況のままでは能代市が bj リーグのホームタウンとなるのは難しいという側面が明らかになった。他の bj リーグへ参入する都市に比べ、マーケット規模は小さく、交通網も発達していない。さらに、周辺産業も発達していないため、他の民間企業との協力が図りづらいというデメリットがある。しかしながら能代市が bj リーグのホームタウンとして魅力的な都市であるということはできる。能代市はマーケットの規模こそ小さいが市民の関心の高さ、バスケットボールの土着性といったほかの都市では持ち得ないメリットをもつ。わずか1シーズンのデータだが、前述の通り、観客数と人口は比例していない。その人口数と観客数の関係を左右するのが能代市の強みである市民の関心の高さ、バスケットボールの土着性なのだと筆者は考える。

能代市が bj リーグのホームタウンとして適正があると強くは言えないが、魅力のある市、すなわち数字には表れにくい潜在的価値を持った都市であると言うことはできると考える。そして、その潜在的価値を「適正」と置き換えることができるならば能代市は bj リーグのホームタウンとして機能することができるのではないだろうか。

【今後の研究課題】

インタビュー調査からだけでは知ることのできないデータや、より詳しく具体的な情報があればより客観性を持った研究にできたと思う。

たとえば、新規参入の基準として事業性を判断する際の具体的資料を手に入れ、それを用いて現在の能代市の状況と照合できればより客観的な研究になったように思う。また、能代市の住民にアンケート調査を行い、bj リーグへの関心度や bj リーグ参入への市民の潜在的な要望などを調べることであればより濃密な研究ができたことだろう。これらの課題は今後の研究課題とし後に続く研究がなされることを期待する。